

進路だより

—第2号—

令和7年2月28日（金） 福島県立視覚支援学校 進路指導部

「そもそものはなし」

教頭 加茂 敬

黄昏の土曜日の夕方、自動車を運転していると、ラジオから、タレントの川島明氏がMCを務める、「そもそも話」という番組が聞こえてきました。皆さんご存知ですか？芸能人やスポーツ選手等が出演し、そもそもなんでこの世界に？とかそもそも有名になったきっかけは？とか、その人の意外と知らないそもそも話を、インタビューしながら深掘りしていく番組です。私はそれを聴きながら、自分自身についても「そもそも私って・・・」と考えることがあります。年を取ったせいもあるかと思いますが、そんなことを考える時間が多くなりました。

「そもそも、私は何で教員になったのか？」

私は、両親から「勉強しなさい」と言われた記憶があまりなく、そのかわり「勉強を教えてもらった」記憶もありません。小学校に入学した時は、当然のように、ひらがなや数字は読めず、周りの友達が、五十音を覚えていたり、簡単な足し算ができたりしている様子を見て、「何で読めるの？どこで覚えたの？」と不思議でなりませんでした。それでも算数の足し算では、何とか自分なりに考えて、20までの足し算はできるようになりました。両手・両足の指を使って数えていたので、ものすごく時間がかかりましたし、20以上の数の足し算はお手上げ状態でした。そんな私の様子を両親が見かねて、半ば強制的に、当時流行っていた〇〇式という塾に入れられました。その塾は、一人一人のできるところから学習していくスタイルでした。私は数字をなぞる段階から始めた記憶があります。できるところから始めたので、塾に行くことが苦痛ではなく、「できた」「わかった」という気持ちが強くなり、それが「楽しい」につながっていたと思います。「楽しい」と思っていたので、その塾は、高校卒業まで続けました。

また、私は、小学生の時から体を動かすことは好きでしたので、両親から地域のスポーツ少年団に入れてもらったり、町のスキー教室に入れてもらったりしました。特にかけっこは学年で早い方でした。それでも1番ではありませんでしたが、運動会のクラスリレーの選手には毎年選ばれ、それだけは、クラスの友だちから認められているようで、うれしかった記憶があります。

中学生になると、ますます授業が難しくなって、学校の授業だけではついていけない私がいきました。「これはまずい。授業についていけない。同じ授業内容を学校と塾の2回受ければ、何とか理解することができるのではないか。」と思い、両親に「塾に行かせてくれ。」と相談して行くことになりました。学校と塾に通うことで、授業のすべてとはいいいませんが、何とか理解することができるようになりました。私は頭で理解するのに時間がかかるなと感じていました。

思考の順番というか組み立てが苦手だとも思っていました。そのため、当時の私は、授業を2回受ければ何とかかなると思っていたのかもしれませんが、自分を理解すること、「自己理解」が大切なんだなと思いました。

私は「体を動かすことが好きなこと。」「分かった、できたときの楽しさを伝えたい。」、その職業は何かと考えたとき、教員という職業が思い浮かび、体育の先生を目指したのかなと思います。また、私の弟が小学生の時に病弱で、当時バットスクールといわれていた病院内で授業を受けていたこともあり、自分ではあまり意識していなかったのですが、特別支援教育を目指した理由の一つになっているのかなと思います。

そんな、自分の生い立ちが、今の自分を作っているのだなと思います。自分の性格や考え方の癖を理解すること、「自己理解」をすることが、未来への「自己選択」や「自己決定」につながるのではないかと、進路選択も同じではないかと思っています。

みなさんは、そもそも何でここにいますか？

1 令和6年度障がい福祉サービス事業所説明会について

1月16日に、アクティブシニアセンター・アオウゼにて、福島市特別支援学校五校協議会と福島市障がい福祉課の主催で、「障がい福祉サービス事業所説明会」が行われました。

参加した45の事業所が、10のグループに分かれ、グループごとに説明が行われました。県北地区の就労移行支援、就労定着支援、就労継続支援(A型、B型)、自立訓練(生活訓練)、生活介護の障がい福祉サービスを提供する事業所が集まり、参加者は関心のあるグループを選んで移動し、説明を聞きました。



また、障がいのある方の就業・生活に関する総合窓口として、県北障がい者就業・生活支援センターの参加、また、障がい福祉課担当の「相談コーナー」も設けられ、福祉に関する基本から質問や相談をすることもできました。各事業所の詳しいデータや、パンフレットが配布されました。ファイルに綴り、本校相談室に保管してありますので、ぜひご覧ください。

本校からは、小学部の保護者さんが参加されましたので、感想をご紹介します。

【参加者感想】

子供は小学1年生です。将来本人の進路をどうフォローできるのか不安でしたが、説明会で沢山の事業所さんがあることを知り、とてもよい経験になりました。

本人の成長に合わせて柔軟に対応していきたいと思う中、このような機会があり、とても勉強になりました。何も分からない中、小さな事でも丁寧にお答えいただけて大変感謝しております。また機会がありましたら、参加させていただきたいと思います。

次年度以降も、説明会が行われると思います。気になる事業所のサービス等について、説明を聞いたり、日ごろ疑問に感じていることを質問してみたりしてはいかがでしょうか。

2 令和6年度 卒業予定者の進路について

高等部	普通科	4名	専門学校：1名 就労移行支援事業所：1名 指定障害者支援施設：1名 就労継続支援 B 型事業所：1名
	専攻科理療科	1名	就職(県内)：1名



3 令和5年度 高等部普通科卒業生からの近況報告

卒業後の生活って、どうなのかな？毎日、どう過ごしているのかな？という声が多く聞かれます。昨年春、本校普通科を卒業した3名の卒業生から、近況報告が届きましたので、ご紹介します。



皆さんこんにちは！令和5年度に卒業しました、Aです！

私は今、専門学校で、声優になるために、日々、いろいろなことを学んでいます。

毎日、電車で揺られながら1人で通っています。空いている席を教えてください方や、話しかけてくださる方もいて、今では、友達と一緒にお茶をして帰ったりと、とても充実した毎日を過ごしています。

学校では、ナレーションの案件をいただいたり、CMの収録をしたり、人形劇の声を担当させていただいたり、夢にちょっとずつ近づいていっています。

最近、1月末に声優科全員で舞台をつくり、公演しました！自分たちで演出、脚本家さんと一緒に、内容を考え、衣装やメイクも考え、本番まで何ヶ月も稽古を重ね、素敵な舞台になりました！



本格的な授業で専門的な内容を勉強しているため、頭を抱えることもあります。自分の好きな分野、やりたい分野を学べて、とても楽しいです！

また、1人で行動することが多くなり、まだまだ知らないことばかりだとは思いますが、今まで見たことのない世界が広がっていて、思った以上に、声をかけてくださる方もいて、もっともっと色々なことに挑戦したい、行動範囲を広げたいと思っています！



